

つなぐ技術で、あなたに喜びを

BUFFALO™

ピックアップ導入事例

授業計画にICT活用授業実施チェックを盛り込む「菊川方式」。すべての市立小・中学校に無線LANを導入し、学校・教員のICT活用による授業改善をサポート

菊川市教育委員会 様

菊川市教育委員会では、ICTを活用した授業のための環境整備を実施。すべての市立小・中学校に、学習用のタブレットを配布するとともに、無線LANネットワークの導入を進めています。今年度、工事を実施した2校の中学校には、無線LANアクセスポイント「WAPM-1750D」計37台を設置。1クラス35名の生徒が同時にタブレットを使用できる環境を整えました。来年度はさらに6校の小学校へ無線LANを導入予定。インフラだけでなく、学校・教員の意識向上や研修にも力を入れ、真に児童・生徒のためになるICT活用教育を推進しています。



菊川市教育委員会 教育長 石原潔氏 (左 以下、石原氏)

●取材協力 静岡日電ビジネス株式会社

パソコン・有線LAN導入から、タブレット・無線LAN導入へ

2007年に、教育長に就任した石原氏は、ICT教育の推進が急務だと考え、市立小・中学校を対象に、教員用パソコンの配布、教室へのネットワーク敷設、大型ディスプレイの設置などを実施。パソコンを活用した授業を行える環境を整えました。

2014年には、パソコンからタブレットへという時代の流れに合わせ、定期的に行っていた児童・生徒用PCの買い替えを一旦見送り、その費用を1教員1台のタブレット導入に充てました。

「教員の中には電子機器が苦手だったり、授業へのICT活用に懐疑的な人もいました。ですからまずは教員にタブレットの良さを知ってもらうことが先決だと考えました。」と語る石原氏。

翌2015年からスタートした地方創生事業「菊川市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の一環として、教育委員会はタブレット授業を実施するための環境整備を提案しました。市内のすべての市立小・中学校を対象に、授業用タブレットの配布と無線LANネットワークの構築を実施。来年度の完了を目指して、工事が着々と進められています。



タブレット授業で、各自がより集中して取り組めるようになった

「WAPM-1750D」発売をきっかけに、採用機器を見直し

菊川市の小・中学校無線LAN導入計画は、今年で3年目。昨年度までに1中学校・3小学校への施工が完了しました。今年度はさらに、2つの中学校への無線LAN導入を実施。そこで採用されたのがバッファローの文教向け無線LANアクセスポイント「WAPM-1750D」でした。施工を担当した静岡日電ビジネス株式会社 公共システム営業部の泉調(いずみ しらべ)氏(以下、泉氏)は、採用の経緯をこう語ります。

「昨年度までに工事を行った4校には他社製のアクセスポイントを採用していましたが、安心・安全な運用環境をご提供するために改めて機器を選定し直すことにしました。その際、バッファローの『WAPM-1750D』に搭載されている『公平通信制御機能』に着目。デモ機をお借りして通信テストを行ったところ、非常にいい結果を得ることができ、またコスト的にも他社製品より有利だったため、本機を選び、教育委員会に再提案することになりました。全国教科用図書卸協同組合の認定機器だということも、選定の大きなポイントになりました。」

2教室に1台の設置により、導入費用を軽減

『WAPM-1750D』は、100台のタブレットの同時通信が可能なため、設置台数は2クラスに1台とし、教室内ではなく廊下に設置することになりました。現在、菊川市の小・中学校は1クラス約35名ですから、仮に2クラス同時に使用したとしてもまだ余裕があります。廊下に設置した場合、教室の壁やドアが障害になりますが、電波環境調査を実施し

たところ全く問題ありませんでした。」

アクセスポイントがクラス数の1/2の台数で済んだこと、すでに有線LANネットワークが整備されており配線工事が不要だったことで、導入費用を軽減することができたと話す泉氏。「WAPM-1750D」への給電にPoEインジェクター「BIJ-POE-1P/HG」を採用し、スイッチなど既設の機器はそのまま生かして給電機能のみを追加することができました。

ICT活用の質を高める改善手法「菊川方式」

菊川市教育委員会では、機器やインフラを整備するだけでなく、ICTを活用した授業をより効果的に実施するための活動を行っています。その一つが「菊川方式」。目標を達成した子供の姿を具体的にイメージして授業を構想する「評価」、一人一人の学びの姿に目を向ける「考えづくり」、一人一人に目的意識や必要感をもたせる「課題提示」の3つのポイントを重点においた授業改善手法をとりまとめ、各学校・教員に徹底することで、市全体における授業の質の向上を図っています。今年度からは、シラバス(授業計画)にもICTを活用した授業の実施有無に関するチェック項目が追加されました。

石原氏は「授業の中でどのように活用していくか、これを授業計画の段階から、先生方にしっかり考えてもらって、それを実践し、検証してもらう。私が校長時代に行っていたことを、いまは教育委員会の立場から、各学校に行うようにと働きかけています。」と語ります。

菊川市のこうした取り組みは、着実に実を結び、昨年度の調査では「授業中にICTを活用して指導することができる」と回答した教員が静岡県の平均より10%以上高い94%、「ICTの活用により授業がよくわかる」と回答した生徒が93%を数えました。今後は全児童・生徒に同様のアンケートを実施し、ICT教育のさらなる改善に取り組んでいきたいと考えています。

導入製品

エアステーションプロ インテリジェントモデル
11ac/n/a & 11n/g/b 法人様向け 無線LANアクセスポイント
WAPM-1750D



株式会社 **バッファロー**

ホームページでさらに詳しい情報を発信中

buffalo.jp/jirei



※掲載されている各製品名は一般に各社の商標または登録商標です。※デザイン・仕様等は改良のため予告なしに変更する場合があります。※記載されている価格は希望小売価格です。